

組織目標評価報告書（令和3年度）

部局名：大学院ヘルスシステム統合科学研究科		部局長名：五福 明夫
目 標 ・ 取 組		目 標・取組の実施状況(成果)及び新たに生じた課題等 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域		
	関連する 年度計画の番号	教育領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等
課題とその対応目標および対応策:「教育の質保証」のために、以下の事項を実施する。 [課題1-1] 教育活動の継続的な改善 [目標と対応策1-1] FD研修会を開催し教育活動改善の検討を行う。教育の国際化のための研修も必要により開催する。 [課題1-2] 博士後期課程カリキュラムの見直しと英語コースの開設 [目標と対応策1-2] 博士後期課程を教育効果のより高い体系的なものに見直し、学位プログラム化を図る。また英語で修了できるコースを開設する。 [課題1-3] 異分野融合教育の推進 [目標と対応策1-3] 医療機関・介護施設・企業と連携し、社会実装へのアイデア創出のための異分野融合教育を推進する。 [課題1-4] 定員充足に向けた教育環境整備や広報活動の推進 [目標と対応策1-4] 研究科のパンフレットを更新しWebページのコンテンツを充実させる。海外特別入試の充実を継続検討する。国際的インターンシップやジョイントディグリー制度の導入を検討する。交流協定に基づく学生の受入・派遣を促進する。博士後期課程学生への経済的支援を充実させる。 [課題1-5] 社会人学生への授業対応や研究指導体制の整備、リカレント教育の検討 [目標と対応策1-5] 無線ネットワーク環境やICTツールを活用して、社会人学生への授業対応や研究指導体制を整備する。社会のニーズ等を調査・分析し、新たなリカレント教育を検討する。 [課題1-6] 教育活動の客観的指標による目標達成 [目標と対応策1-6] 定員充足率、就職率、休学率、退学率、学生海外派遣数、留学生入数について設定した目標値達成を目指す。継続実施の目標:博士後期課程のカリキュラムを見直し、博士前後期課程をシームレスに連結した学位プログラムの構築のための課題を整理する。	16 3, 10, 50 19, 26 9, 14	[実施状況1-1]FD研修会を2回(2021年12月1日および2022年3月30日(予定))開催し教育活動改善の検討を実施した。 [実施状況1-2]学務委員会を中心として、博士後期課程カリキュラムをより高い体系的なものに見直した。また英語で修了できるコースを3コース開設することとした。 [実施状況1-3]博士前期課程科目「先進病院実習」と「実践バイオデザインコース」にて岡山大学病院と、また統合科学コーディネータによる「岡山里ビングラボ」にて企業などと連携し、社会実装へのアイデア創出のための異分野融合教育を推進した。 [実施状況1-4]研究科のパンフレットを更新し、Webページのコンテンツを充実させた。インドのSister Nivedita大学や台湾の長庚大学と国際的インターンシップやジョイントディグリー制度の導入について協議を進めた。また、RA制度などにより博士後期課程学生への経済的支援を行った。なお、交流協定に基づく学生の受入・派遣はコロナ禍のために実施が出来なかった。 [実施状況1-5]工学部とも協力して、無線ネットワーク環境やICTツールを活用して、社会人学生への授業対応や研究指導体制を整備した。また、社会のニーズ等を調査・分析し、新たなリカレント教育を検討して試行した。 [実施状況1-6]定員充足率については博士前期課程、博士後期課程とも100%を達成した。しかしながら、コロナ禍により、学生海外派遣数と留学生入数については目標値を達成できなかった。 継続実施の目標:全学の方針を考慮して、学務委員会を中心として、博士前後期課程をシームレスに連結した学位プログラムの構築のための検討を行い洗練させる。
②研究領域		
	関連する 年度計画の番号	研究領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等
課題とその対応目標および対応策:超高齢化社会におけるヘルスシステム関連の諸問題の解決に向けて、医学、工学の連携や文理融合などの統合科学的手法による学際研究を推進し、SDGsに資する国際研究拠点形成を目的とする。 [課題2-1] 研究科がカバーする学問分野での独自性と多様性を追求し、ヘルスシステムに関する新たな統合型学問領域を創成する。[目標と対応策2-1] 統合科学による文理融合型研究プロジェクトやグローバル化プロジェクトの推進と若手研究者支援を行う。 [課題2-2] 国際拠点形成活動の支援:若手、女性教員を中心とした海外協定校との研究者交流を推進し、強化すべき学術研究分野の国際共同研究数を増やすために、学外研究機関等との連携を強化して次世代研究拠点確立の仕組みを構築する。[目標と対応策2-2] エジプト2大学との交流協定の締結、またインドの大学との共同研究強化を行う。 [課題2-3] ヘルスシステムに関連する学内外の組織との分野横断型研究を強化し、質の高い研究成果を創出するとともに、学内外に情報共有を行う。[目標と対応策2-3] 発表論文数、国際共著論文、国際共著率、Q1 ジャーナル発表数について目標値達成を目指す。 継続実施目標:客観的指標による目標として科研費申請率・新規採択率、科研費獲得金額、特許件数、共同研究受入金額・件数、受託研究受入金額・件数、寄附金受入件数の増加を目指す。	27, 35 31 37, 50	[実施状況2-1] 統合科学による文理融合型研究プロジェクトやグローバル化プロジェクトの推進と若手研究者のために、合計17の研究プロジェクトに対して経費支援を行った。 [実施状況2-2] エジプトの大学(Menoufia University)やインドの大学(Sister Nivedita University)との連携を継続的にに行い、また、マレーシアバハン大学電気工学部との共同研究や交流を強化し、2021年9月には共同でオンライン国際シンポジウムを開催するとともに、部局間国際交流協定を新規に締結した。これらの2大学の研究者も含めて、2022年2月3日と4日には、研究科主催のオンライン国際シンポジウム(第13回高度医療都市を創出する未来技術国際シンポジウム:複雑な課題を解決するイノベーションを生む鍵)を開催した。 [実施状況2-3] ヘルスシステムに関連する学内外の組織との分野横断型研究を強化し、質の高い研究成果を創出発表し、研究科独自に発刊している「統合科学」を通して研究成果を国内発信した。さらに、令和4年度より癌幹細胞を未分化細胞から人工的に調製する独自技術を活かし、生物工学的に研究、これを診断・治療・医薬開発へ応用する技術として 社会実装することを目的として寄付研究部門「癌幹細胞工学研究部門(寄付金総額42,000千円)」を設置することとなった。
③社会貢献(診療を含む)領域		
	関連する 年度計画の番号	社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等
課題とその対応目標および対応策:超高齢化社会の諸問題の解決への貢献のために、以下の事項を実施する。 [課題3-1]ヘルスシステムを対象として、統合科学的手法によるSDGs活動を推進する。[目標と対応策3-1]統合科学に関する専門書籍の翻訳・出版を企画する。 [課題3-2]ソーシャルイノベーションを起こす国際拠点の形成を目指す。[目標と対応策3-2]岡山里ビングラボを継続して定期的に開催する。 [課題3-3]ヘルスシステムをはじめとした岡山大学のシーズに基づく成果や研究活動を積極的に発信する。[目標と対応策3-3]シンポジウムや講演会を企画開催し、ヘルスシステムに関する統合科学研究の成果を積極的に発信し、研究情報の提供や学術的な知の平易な紹介を目的として市民講座を企画開催する。また英語版の紹介ビデオを作成する。 [課題3-4]ヘルスシステムに関する研究成果を社会に還元する。[目標と対応策3-4]研究成果を社会実装という形で還元する。 継続実施目標:客観的指標として、共同研究件数、受託研究件数、研究会および学会発表件数、国際シンポジウム発表件数、論文数、書籍出版件数について目標値達成を目指す。	47, 85 50	[実施状況3-1]ヘルスシステムを対象として、統合科学的手法によるSDGs活動を推進するために、統合科学に関する専門書籍の翻訳・出版を企画した。 [実施状況3-2]ソーシャルイノベーションを起こす国際拠点の形成のために、岡山里ビングラボを継続して定期的に開催した。なお、この取り組みは来年度以降、全学展開する予定である。 [実施状況3-3]2022年2月3日と4日には、研究科主催のオンライン国際シンポジウムを開催した。また、4回の講演で構成される市民講演会を2021年夏から秋にかけて開催し、医工連携等異分野融合領域をはじめとした研究科の研究活動を積極的に発信した。さらに、研究科の教育・研究の発信のために、研究科のWebページを更新整備し、英語版と中国語版の紹介ビデオを作成した。 [実施状況3-4]岡山大学病院や医歯薬学総合研究科と共同で、医療現場での課題解決の社会実装に取り組み、がん診断、新型コロナ感染症対策や医療教育に関して成果を挙げつつある。 年度当初の目標以外の国際教育活動として、JICAのイノベータティブアジアの短期プログラム(2週間)を企画・開催し、東南アジアやスリランカから11人の参加者と1人のオブザーバ参加者があった。また、リカレント教育として、ヘルスシステムIT人材育成プログラムを構想し、2022年3月に試行し、55人の参加者があった。
④管理運営領域		
	関連する 年度計画の番号	管理運営領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等
課題とその対応目標および対応策: [課題4-1] 研究科の現状を把握し、戦略的に運営する。[目標と対応策4-1] 外部評価等を活用して検討した戦略に基づいて運営する。 [課題4-2] 女性教員・外国人数員比率を維持する。[目標と対応策4-2] 教員公募において、厳正な評価の下で女性教員や外国人教育の採用を検討する。 [課題4-3] SDGsを推進する統合科学プロジェクトの推進や、次世代人材育成のために、予算配分等を検討する。[目標と対応策4-3] 統合科学プロジェクトの提案を募集して評価の上予算配分し、RA/TA学生の雇用に対して予算配分する。 [課題4-4] 新型コロナウィルス感染症に適切に対応する。[目標と対応策4-4] 必要な情報の迅速な伝達やリスクアセスメントなどにより教育・研究活動の低下を小さくする対策を講じる。 継続実施目標: ・安全衛生、情報セキュリティ、コンプライアンスなどに関する講習会受講を促進し、構成員の意識向上を図る。 ・客観的指標として、月例会議開催1回以上、FD等の研修会を年1回以上、また、次世代育成支援予算配分、新規プロジェクトへの経費支援、学生のRA/TA経費に対する予算配分、安全衛生・コンプライアンス教育講習受講率、共用スペース活用状況、外国人数員割合、女性教員割合、若手教員割合目標値の達成を目指す。	72 40 89, 90, 91, 93	[実施状況4-1] 2021年3月に実施した外部評価結果などに基づいて、戦略的に研究科を運営した。 [実施状況4-2] 教員公募において、厳正な評価の下で女性教員や外国人教育の採用を検討し、昇任を除く4人の公募人事で3人の女性教員を選考した。 [実施状況4-3] SDGsを推進する統合科学プロジェクトの推進や、次世代人材育成のために、統合科学プロジェクトの提案を募集して評価の上、合計17の研究プロジェクトに対して予算配分した。また、RA学生の雇用を行った。 [実施状況4-4] 新型コロナウィルス感染症に関して、必要な情報の迅速な伝達やリスクアセスメントなどにより、教育・研究活動の低下を最小限に抑えた。 また、安全衛生、情報セキュリティ、コンプライアンスなどに関する講習会受講を促進し、構成員の意識向上を図った。 客観的指標に関して、月例会議開催1回以上、FD等の研修会を年2回開催した。また、次世代育成や新規プロジェクトへの経費支援を行い、学生のRA経費を配分した。